

～TANKYU～

谷地南部小学校

校内研究だより

2024. 2. 7

No.52 文責 荒木秀

土田先生に学ぶ

前号で、学校の強みは「**みんなと関われる**」ことと確認しました。その方法について、初任研だより27号で土田先生が示してくださっています。

「学習形態と効果的な活用」として、「一斉指導」「個別指導」「グループ別指導」のメリット、デメリットをまとめてくださっています。私はときどき授業をのぞかせていただくのですが、先生方、状況に合わせてうまく使い分けをされているなと感じています。

ただ、せっかくの機会なので、あえて課題を上げると、**先生方しゃべり過ぎではありませんか？**つまり、「一斉指導」の割合が高いということです（自戒も込めて）。伊藤先生が「TANKYU」（50号）で、いかに削いでいくかという話を出してくださっていました。学年や児童の実態に合わせることは何より大切ですが、先生方もう一度自分の「指示・発言」（教師の出）を見直されてはどうでしょうか？

では、教師の出を減らすにはどうするか？それについては、土田先生がもう1つ資料を付けてくださっています。「**特集 学ぶ意欲を引き出す工夫 教材(学習材)のおもしろさに触れさせ、学ぶ意欲を引き出す**」(兵庫教育大学 吉川芳則)です。私なりにまとめると「**オーセンティックな学び**」になることが大事なのかなと思いました。

オーセンティックな「学び」とは、「具体的な本物の場面に即して学びをデザインすること」を意味しています。これが「オーセンティック・ラーニング」であり、教育内容や教材、学習方法も含めた「**学び**」の全体を本物にすることです。

《みんなの教育技術 HP より 武蔵野大学准教授 小野健太郎 執筆》

さらに2つのタイプに分けられます。「実用的場面でのオーセンティックな学び」と「学問的場面でのオーセンティックな学び」です。前者は、実社会につながる学びです。校外学習に行ったり、町長さんに提案したり、学校でとどまらないということです。後者は、学問の本質に迫る学びです。「分数のわり算は、なぜ、分母と分子を逆にしてかけるのか」自ら考えたり、学級の仲間とともに検討したりするということです。つまりどちらにしても、子どもたちが課題を自分事としてとらえ、夢中になれるということが大切のようですね。